彼らが従うべきは

支配者から下された命令か、

それとも個人の意志か……。

【芸術監督・演出】小川絵梨子

成河

亀田佳明

【チケット好評発売中 ☞ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

◎新国立劇場 制作部演劇 広報担当

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

◎新国立劇場 制作部演劇 制作担当

TEL: 03-5352-5736

新国立劇場
NEW NATIONAL THEATRE TOKYO
http://www.nntt.jac.go.jp

◎作品について

芸術監督・小川絵梨子の掲げる「ことぜん」とは
2019/2020シーズンの幕開けはこの「ことぜん」シリーズ3本からスタートします。「ことぜん」とは個と全という意味合いで、個人と国家、個人と社会構造、個人と集団の持つイデオロギーなど、「一人の人間と一つの集合体」の関係をテーマとしています。 閉塞感ある全体主義やその圧力に取り込まれる「個人」。しかしながらその「個人」が集まり「全体」を創りだしてしまう.....。そんな切っても切れない個と集合体の関係性や、相互作用、その中での軋轢や葛藤を、三人の演出家がそれぞれの作品でそれぞれの視点から描きます。
上演作品は日本初演作品を含み全て新翻訳です。演出にはそれぞれ新国立劇場初登場の五戸真理枝、瀬戸山美咲を迎え、さらに芸術監督の小川絵梨子も担います。

シリーズ「ことぜん」Vol.3 『タージマハルの衛兵』

新国立劇場で 2015 年 12 月に上演された『バグダッド動物園のベンガルタイガー』の作家であるラジヴ・ジョセフが同年 6 月に初演した『タージマハルの衛兵』を、ことぜんシリーズの第三弾として日本初演いたします。
タージマハル建設中のムガル帝国。その完成前夜から始まる物語の登場人物は、フマーユーンとバーブル、たった 2 人。夜通し警備をする、幼馴染でもあるふたりの会話は、現実と夢想、支配者とレジスタンス、国への忠誠と個人の尊厳など、相対する多くの問題をはらみ、時間が経つにつれて次第にスリリングになっていきます。
ある枠組みの中に生きる人間が抱える、普遍的な葛藤を描く物語。

◎あらすじ

1648 年、ムガル帝国のアグラ。建設中のタージマハルの前。「建設期間中は誰もタージマハルを見てはならない」と、皇帝からのお達しがあった頃。
完成お披露目の日の前日、夜通しで警備についている、幼馴染のフマーユーンとバーブル。警備中はタージマハルに背を向け、沈黙のまま直立不動でなくてはならない。だが、夢想家のバーブルは黙っていられなくなり、律儀に立ち続けるフマーユーンに話しかけてしまう。
二人の会話はまるで『ゴドーを待ちながら』の二人のように、もしくは『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』の二人のように、とりとめのない言葉の応酬のようでありながら、二人の人間の差を描き出して行く。
皇帝陛下から命令が下る。「タージマハルに並ぶ美しい建造物を今後決して生み出してはならない」「建造に関わった2万人の手を切り落とせ」――執行を命ぜられたのはフマーユーンとバーブルの二人だった……。

◎翻訳　小田島創志からのメッセージ

ラジヴ・ジョセフ『タージマハルの衛兵』は、「いま」を映し出す物語だ。たしかにこの芝居の舞台は1648年のインドだが、登場人物の2人、ムガル帝国の警備兵フマーユーンとバーブルが抱える葛藤は、地域や時代に限定されない普遍性を帯びている。完成間近のタージマハルを警備する彼らは、現代の若者のようで、どこにでもいそうな（しかし魅力にあふれた）キャラクターだ。そんな幼馴染2人組に下された、帝国からのとんでもない指令。それを前にした2人の言動の違いは、「組織」にどう向き合うかという悩ましい問いを、いまを生きる我々に突きつけてくる。家族や国家といった「組織」のなかで「個」は摩耗して、交換可能な機械の部品のようになっていく。しかし、その現状から抜け出したくても抜けられない。「個」と「組織」は切っても切れない関係にある。

「個」と「組織」の危ういバランスは、「ジョーク」「発想」と「不寛容」の危ういバランスでもある。ジョークや発想に不寛容な社会は息苦しい。しかしジョークや発想は、ときに暴走する怖さをはらんでいる。不寛容だからこそ逆に想像力が刺激されるということもあるかもしれないし、言葉が全てジョークになってしまっては、何も伝わらなくなってしまう。その危ういバランスのなかを、フマーユーンとバーブルはどのように歩いていこうとするのだろうか。2人の会話に、ときに笑い、ときにはっとしながら、「いま」が凝縮された濃密な劇的空間を堪能してほしいと思っている。

◎演出　小川絵梨子からのメッセージ

「ことぜん」シリーズの第三弾としてお届けるする本作は、寓話性を持ったダークコメディです。

完成間近のタージマハルの前で警備をしている若い衛兵二人が、この物語の主人公です。

「歴史上もっとも美しい建築物」とされるタージマハルは、皇帝によって「完成するまで誰も見てはならない」とされていました。

夜通しの警備中の二人は、自分たちの後ろにある「最も美しいもの」を振り返って見てみたい、けれど絶対に見てはならない……。

個人の自由と、国家の一員としての責任の間で、若い二人の衛兵は葛藤を繰り返していきます。

1600年代のインドが設定ですが、二人の主人公は我々と変わらぬ現代語を話し、我々と変わらぬジレンマの中にいます。

初めてこの台本を読んだとき、「絶対にやりたい」と思いました。二人の主人公が繰り広げる、可笑しくもどこか哀しいやりとりは、『ゴドーを待ちながら』のウラジーミルとエストラゴンや『ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ』のロズとギルを彷彿させました。そして大好きな『ゴドー』や『ロズギル』のように、この本もまた、人間の存在のあり方を問う普遍的な寓話です。大好きな本で、大好きなキャストのお二人と作品を創れることを、この上なく幸せに感じています。

◎スタッフプロフィール

小田島創志 （ODASHIMA Soshi）

1991年、東京生まれ。東京大学大学院在籍。お茶の水女子大学、東京藝術大学、明治薬科大学非常勤講師。専門はハロルド・ピンター、トム・ストッパード、デイヴィッド・ヘアを中心とした現代イギリス演劇研究。また、英語圏における小説のアダプテーション（翻案）について、研究成果を日本英文学会などで発表。戯曲翻訳としては『受取人不明 ADDRESS UNKNOWN』が2018年に上演されている。また、講談社ウェブマガジン『クーリエ・ジャポン』で記事翻訳を担当。

小川絵梨子 （OGAWA Eriko）

1978年、東京生まれ。2004年、アクターズスタジオ大学院演出部卒業。06～07年、平成17年度文化庁新進芸術家海外派遣制度研修生。10年、サム・シェパード作『今は亡きヘンリー・モス』の翻訳で第3回小田島雄志・翻訳戯曲賞受賞。12年、『12人～奇跡の物語～』『夜の来訪者』『プライド』の演出で第19回読売演劇大賞優秀演出家賞、杉村春子賞受賞。14年『ピローマン』『帰郷-The Homecoming-』『OPUS／作品』の演出で第48回紀伊國屋演劇賞個人賞、第16回千田是也賞、第21回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。最近の演出作品に『スポケーンの左手』『RED』『夜想曲集』『ユビュ王』『CRIMES OF THE HEART ―心の罪―』『TheBeauty Queen of Leenane』『ファン・ホーム』『マクガワン・トリロジー』『出口なし』『熱帯樹』『WILD（ワイルド）』『死と乙女』など。新国立劇場では『OPUS／作品』『星ノ数ホド』『マリアの首 ―幻に長崎を想う曲―』『1984』『スカイライト』『骨と十字架』の演出のほか、『ウィンズロウ・ボーイ』『かもめ』の翻訳も手がけている。18年9月より新国立劇場演劇芸術監督。

◎出演者プロフィール

成河 （Songha）

大学時代から演劇を始め、北区つかこうへい劇団などを経て、2004年ロバート・アラン・アッカーマン演出『エンジェルス・イン・アメリカ』のエンジェル役に抜擢。近年の主な舞台として、『エリザベート』『BLUE／ORANGE』『スリル・ミー』『Fully Committed』『黒蜥蜴』『人間風車』『子午線の祀り』『髑髏城の七人 Season花』『わたしは真悟』『グランドホテル』『スポケーンの左手』『100万回生きたねこ』『アドルフに告ぐ』『十二夜』『THE BIG FELLAH ビッグ・フェラー』『ショーシャンクの空に』など。新国立劇場では『アジア温泉』『サロメ』『夏の夜の夢』に出演している。平成20年度文化庁芸術祭演劇部門新人賞、第18回読売演劇大賞優秀男優賞受賞。

亀田佳明 （KAMEDA Yoshiaki）

文学座所属。2004年『モンテ・クリスト伯』で初舞台後、舞台を中心に劇団内のみならず外部作品にも多数出演。最近の主な舞台として『イザ ―ぼくの運命のひと―』『ガラスの動物園』『いずれおとらぬトトントトン』『かのような私－或いは斎藤平の一生－』『岸 リトラル』『坂の上の家』『弁明』『対岸の永遠』『くにこ』『明治の柩』『CRIMES OF THE HEART ―心の罪―』『信じる機械－The Faith Machine－』『ガリレイの生涯』『カラムとセフィーの物語』など。新国立劇場では『ヘンリー五世』『マリアの首－幻に長崎を想う曲－』『ヘンリー四世』『三文オペラ』『るつぼ』に出演。その他、映画、吹き替え、ラジオドラマなどでも活躍している。

◎公演概要

【タイトル】　タージマハルの衛兵　（Guards at the Taj）

【スタッフ】
作：ラジヴ・ジョセフ　翻訳：小田島創志　演出：小川絵梨子
美術：二村周作　照明：松本大介　音響：加藤 温　衣裳：原まさみ
演出助手：西 祐子　舞台監督：福本伸生

芸術監督 小川絵梨子
主催 新国立劇場

【キャスト】 成河 亀田佳明

【会場】 新国立劇場 小劇場 （京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結）

【公演日程】 2019年12月7日（土）～23日（月） ※2日（月）、3日（火）にプレビュー公演

【料金】
（プレビュー公演）
A席4,950円B席2,200円（10%税込)
（本公演）
A席6,600円B席3,300円（10%税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】
新国立劇場ボックスオフィス TEL：03－5352－9999（10:00～18:00）
新国立劇場Webボックスオフィス http://pia.jp/nntt/

＊Z席1,620円 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。＊当日学生割引 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。＊新国立劇場では、高齢者割引（65歳以上5%）、障害者割引（20%）、学生割引（5%）、ジュニア割引（中学生以下20%）など各種の割引サービスをご用意しています。